

2009年度（四年生で）の取り組み

◇憲法記念日の前に

平和憲法は戦争から生まれた

◇5月15日に

先生が小学生の頃の日本地図 沖縄県がない  
どうしてか 歴史的経緯

◇6月23日に

「島唄」  
沖縄全戦没者慰霊テレビ中継

◇12月8日に

開戦を告げるラジオ放送  
高木敏子証言（戦争が始まって人びとは喜んだ？悲しんだ？怒った？）

◇「かわいそうなぞう」は人間の都合で殺されたからかわいそう

「動物と戦争」の話

◇「六にんのおとこたち」

戦争はなぜおこるか  
おこさないために 戦争放棄の憲法

# 1941年 12月8日の朝に

名作「ガラスのうさぎ」の作者、高木敏子さんが自分の体験した12月8日朝の様子を書いています。

＜岩波ブックレットNo.65 高木敏子『もういやお国のために』には1986より＞

一九四一（昭和十六）年十二月八日の朝、私は、ラジオの大きな音で目がさめました。眠い目をこすりながら、二階から階下におりて行くと、父や兄、そしてわが家で働いていたお兄ちゃんたちが、「やった！ やった！」と、大声を上げて騒いでいました。私はびっくりしてしまいました。

私の家は、ガラスで工芸品をつくる工場でした。戦争がはじまる前は、盛鉢<sup>もりばち</sup>や置物をつくっていました。戦争中になると、軍の指定工場となり、注射器などを製造することになってしまったのですが……。

下町では、いつも「朝飯前のひと仕事」といって、朝早くから機械をまわして仕事をしたものでした。ところが、この日は、父をはじめ、だれも仕事をしていません。みんな仕事もしないで、どうしちゃったんだろう、こんなに騒いで……。そのときラジオから、

「臨時ニュースを申しあげます。臨時ニュースを申しあげます。帝国海軍は、ハワイの米艦隊にたいし、決死的な攻撃を敢行<sup>かんこう</sup>せり……」

みんな、また、わーという歓声を上げました。

「日本は、カンニン袋<sup>かんにんぶくろ</sup>の緒<sup>お</sup>が切れたのだ」

「日本の海軍は強い！ やっぱ強い！」

と口ぐちに叫んでいました。いま思いたしても、あのときの男の人たちの情景は、狂喜<sup>さた</sup>の沙汰<sup>さた</sup>でした。

そうした勝った、勝ったの騒ぎも、翌一九四二（昭和十七）年六月五日のミッドウェー海戦での敗北を境に、つぎつぎと暗いニュースになっていきました。しかし、国民は真実の報道を知らされず、「神国日本」はかならず勝つ、かならずまき返すとおもっていました。

高木敏子  
もういや  
「お国のために」には  
ガラスのうさぎを溶かさないで



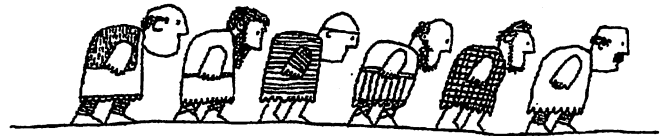
岩波ブックレットNO.65

## 六にんの男たち

デイビッド=マッキー さく

なかむら こうぞう やく

偕成社 1975より



①むかし、六にんの男たちがいました。

男たちは、へいわにはたらいにくらすことのできる土地をもとめて、ながいあいだ、あるきつづけていました。

②ながいことさがしまわったすえ、ようやく、六にんはよくこえた土地を見つけ、そこにすみつくことにしました。みんなが、せっせとはたらきました。

畑をたがやし、家をたて、しだいにかねもちになっていきました。

③ところが、だんだんかねもちになるにつれて、六にんの男たちは、しんぱいになりはじめました。どろぼうがやってきて、せっかくたくわえたものをさらっていきはしないかと、きになりだしたのです。

そこで男たちは、たかいとうをたて、てきをみはることにしました。すこしでもあやしいものおとがすると、そのたびにかけつけては、とうにのぼって見るのです。

④そのうち、みんなは、そんなことをするのにあきあきしてきました。

あるひ、そうだんのけっか、それではじぶんたちのざいさんをまもるためにばん兵をおこう、ということになりました。

⑤六にんの男たちは、みるからにつよそうな六にんの兵隊をやといました。

これからは、なにかめんどろなことがおこると、その兵隊たちがでかけてゆけばよいのです。

⑥ところが、どろぼうどもは、いっこうにやってきません。

兵隊たちは、なにもすることがないので、すっかりたいくつして、ただごろごろねそべっているだけです。六にんの男たちは、またしんぱいになってきました。

こんどは、兵隊たちがたたかいかたをわすれはしないかと、きになりだしたのです。それに、なにもしない兵隊にお金をはらわなくてはいけないということも、なやみのたねでした。

そこで男たちは、なにかよいほうほうはないかと、あれこれかんがえました。

⑦ちかくに、ほかの人たちがすんでいる農場がありました。六にんの男たちは、それにめをつけて、その農場をのっとるために、六にんの兵隊をおくりました。

のっとりはかんたんでした。へいわにくらしていたその農民たちは、さっさとにげていったのです。このたたかいで、兵隊たちは力のほどをしめしたし、おまけに土地はふえるしで、ようやく六にんの男たちは、しんぱいがなくなりました。

ところが、こんどは、もっとつよく、もっとかねもちになりたいというきもちが、わいてきたのです。

⑧まもなく、兵隊たちは、ちかくにある農場という農場をつぎつぎと、ひとつのこらずせんりようするようにめいれいされました。これらの農場の農民たちのなかには、ていこうしてころされるものもありましたが、こうさんして、六にんの男のためにはたらくことを、しょうちするものもありました。

⑨六にんの男たちは、ますますおおくの土地をせんりようし、ますますかねもちになるにつれて、もっともおおぜいの兵隊をやとわなくてはならなくなりました。

こうして男たちは、やがて大きな軍隊をもつようになり、さいしょにやとった六にんの兵隊が、この軍隊の上官になりました。

⑩この軍隊は、さらにおおくの土地をせんりようし、とうとう六にんの男たちは、このちほうを大きな川のところまでおさめることになりました。

⑪こうさんしたくない農民たちは、川をわたって、にげていきました。そして川のむこうがわで、せっせとはたらき、こうふにくらしました。この人たちのたつた一つのしんぱいは、あの六にんの男たちの軍隊が、川をわたって、せめてくるのではないか、ということでした。

そこで、この農民たちは、てきをふせぐために、みんなが力をあわせることにきめました。そして二つのグループにわかれしました。二つのグループが、かわりばんこに、戦争のためのくんれんをしたり、畑をたがやしたりするのです。こうしてだれもが、てきのこうげきにそなえました。

⑫六にんの男たちは、川ぎしにひとりのばん兵をたてました。すると川のむこうがわでも、おなじように、ひとりのばん兵をたてました。

⑬しばらくのあいだは、なにごともなく、おだやかにすぎました。りょうほうのばん兵は、てもちぶさたでした。

ところがあるひ、一わのカモが川にとんできました。りょうほうのばん兵が、それをみました。

りょうほうのばん兵が、それをねらって、矢をはなしました。が、りょうほうのばん兵とも、しっばいしました。

⑭それた二つの矢は、うなりをはっし、川をよこぎってとんでいきました。すると、りょうほうのばん兵とも、じぶんがてきにねらわれたのだとおもって、ラッパをふいて、きけんをしらせました。

⑮りょうほうから、かんぜんにぶそうした軍隊がくりだされ、大きなたたかいはじまりました。

⑯川のうえと、川のりょうぎしで、はげしいたたかいが、なんにちもつづいて、そして……

⑰たたかいがおわったときには、いきのこっているものといったら……

⑱ただ、川のりょうがわに、六にんの男たちがいるだけでした。川のりょうがわの六にんの男たちは、それぞれはんたいのほうこうにたちさり、へいわにはたらいにくらすことのできる土地をもとめて、あるきつづけるのです。

# 憲法九条を読んでみよう

## 第9条 Article 9

第1項 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

Aspiring sincerely to an international peace based on justice and order, the Japanese people forever renounce war as a sovereign right of the nation and the threat or use of force as means of settling international disputes.

### <だいたいの意味>

この世界がまちがったりみだれたりせずに平和であることを願って、日本の人びとは国と国とのもめごとを解決するために戦争をおこしたり、武器を使っておどしたりするようなやりかたはぜったいにしません。

### <自分のことばで>

戦争をいこともたれもしない。武器をつかわない。ほかのかいけつ方を考える。

第2項 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

In order to accomplish the aim of the preceding paragraph, land, sea, and air forces, as well as other war potential, will never be maintained.

The right of belligerency of the state will not be recognized.

### <だいたいの意味>

戦争をおこさないために、戦争をする軍隊はもちません。国としても戦争をすることはゆるしません。

### <自分のことばで>

軍隊を作らない。国としても戦争することはゆるさない。